

1. Nコンで2000を超える参加校の頂点に立った鶴川二中。2時間程の練習を週に5日行う
2. 鶴川二中の名が刻まれている内閣総理大臣賞杯
3. 出場した2007年から連続して東京都代表に選ばれているTBSこども音楽コンクール。2012年には日本一に輝いた
4. 合唱指導の第一人者である眞鍋淳一先生。子どもが輝く瞬間を見逃さない
5. 武蔵野音楽大学の同窓だった眞鍋夫妻。二人とも文部科学大臣優秀教員の表彰歴があり、30年以上前から市内に在住している



# 鶴川から全国に響く 美しいハーモニー

10月9日、渋谷のNHKホールで行われたNHK全国学校音楽コンクール、通称Nコンの全国大会で町田市立鶴川第二中学校が2年振り、3度目の日本一に輝いた。指導する眞鍋淳一先生は、町田市立堺中学校でも合唱部を日本一に導いた合唱指導のエキスパートだ。そして、前日の10月8日、その同じステージで歌う小学校の中には鶴川第二小学校の姿があった。

## 特集 3

# 眞鍋淳一

町田市立鶴川第二中学校 音楽教諭

眞鍋 淳一 武蔵野音楽大学音楽学部声楽学科卒。全国で合唱指導、授業指導、研究会の講師、助言を行っている。著書に「授業のための合唱指導虎の巻」(音楽之友社) 町田市立鶴川第二中学校 NHK全国学校音楽コンクール全国大会金賞、全日本合唱コンクール全国大会金賞、TBSこども音楽コンクール全国大会最優秀賞ほか受賞歴多数。合唱曲のレコーディングやコンサート出演を依頼されることも多い

昼休みになると歌が好きな生徒が自然と集まって合唱を楽しむ「昼休み合唱団」が存在する鶴川二中。多いときは100人を超える生徒で音楽室が溢れ返る。そんな鶴川二中に眞鍋教諭が赴任してきたのは平成17年のことだった。早速合唱部を作り、運動部の有志も募ってコンクールに出場。初年度でNコンの東京都大会で銅賞に輝くと、2年後には東京都合唱コンクールで金、その翌年には全国大会で銅と、鶴川二中は瞬く間に全国大会の常連校となっていた。

一方、同じ学区の鶴川二小も今年のNコンで関東甲信越ブロックの金賞に輝き、全国大会に駒を進めた強豪校だ。実は、ここで指導を行うのは眞鍋氏の妻のなな子先生。以前勤めていた学校でも多くの受賞歴があるが、子どもたちが中学に進んだ後、合唱が続けられない状況が常々憂いていた。身体や声作りから始め、技術が全国レベルに達した生徒でさえ、合唱を続ける場がないのだ。どうしようもない不幸な現状に心を痛めていた。

そんな想いを抱えていた平成19年の春、なな子先生の赴任先が鶴川二小になった。夫婦で教諭の場合、赴任先が同学区になることは奇跡に近い。以来、彼女の指導を受けた生徒は鶴川二中に入學すると7割近くが合唱部に入部する。合同演奏会を行ったり、二小の指導に淳一先生があたるなど、相互の取り組みも始まった。そんな状況も手伝って、鶴川二中の合唱部はこの4年間で3度目の日本一に輝いている。

全国大会という独特の空気を経験した生徒たちは本音に強い。合唱が自分の居場所となり、自信となつて他の場所や将来に繋がっていくという。「歌には素晴らしい力がある。歌声が響く学校は死んでいる。市民ホールの町田市連合音楽会でも、いい演奏をすると聴く生徒の態度も変わってくる。」事実、鶴川二中は運動部の成績も学校の雰囲気もとてもいい。「私立よりも鶴川二」という生徒も多く、空き教室は一つもない状況だ。

普段は音楽教諭として若い音楽教諭の指導にも熱心だ。夢は教諭子が音楽教師になつて日本中で合唱の指導をしてくれること。スタッフとして練習を手伝ってくれる卒業生も既に何人かいるという。保護者や大勢の人たちに支えられ、更に輝きを増す合唱部。鶴川には今日も美しい歌声が響いている。